

# 会報

第100号

平成22年2月24日  
新潟県特別支援教育研究会  
事務局：新潟市中央区  
白山浦1-207-3  
新潟市立鏡淵小学校内  
発行：文久堂

## 動き出す教育の充実へ



新潟県特別支援教育研究会  
副会長 金子周一

発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業が文部科学省委嘱事業として新潟県では継続・充実が図られている。また、特別支援学校の整備・充実が計画されている。更に、特別支援学級、通級指導教室の整備・充実に着手されている。これは、新潟県義務教育課特別支援教育係・佐藤昇誠係長の講話での情報です。特殊教育から特別支援教育に転換して三年目を迎えた教育行政面からの強い教育改革の推進であり、特別支援教育への強い願いであり、新潟県の熱い期待の表れと認識できます。

平成二十一年においては、三回の講演会を聞く機会を得ました。  
・岡山大学大学院教授 佐藤暁様  
すべての子どもの学びと育ちを保障する授業・保育づくり

新白大学教授 松矢勝宏様  
発達障害のある児童生徒の進路支援と社会参加の国の施策や課題をめぐって

上越教育大学大学院教授 加藤哲文様  
支えられ上手と自立とは？  
どの講演も参加者からは好評を博したことは論を待ちません。そこで、話を聞いて感じたことは、次の事柄でした。

○発達障害のある人々の社会参加を促進するには、  
(一) 特別支援教育の在り方を問い直す。  
(二) 雇用・就業支援を促すことが重要である。  
○自立を促す援助の方法を工夫し、自立に向けた支えられ上手を育てる。介助と援助の使い分け。

○自己評価能力の育成への視点から「学習集団化」を通して協同学習を実践し、「つなぐ」授業を創造する。その過程で、どの子にも学習の成立を促す。  
各学校では、「一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育」に向けた実践が実行され、点検され、事例の蓄積が行なわれているところと推察します。また、各学校において、校内委員会を設置して、特別支援教育コーディネーターを指名し、特別支援教育の充実に向けていると感じております。  
前号で、吉田会長は小・中学校の課題への改善の視点として「すべての教師が支援教育を」「指導内容・方法の見直し」を提示されました。それとともに、通常学級での授業改善と就業への支援の在り方が、これから更なる創意工夫と取組の充実が求められていると言えます。特別支援教育の視座から教育の充実に向けて動き出したということを実感しています。  
中越地区の研究大会見附大会は「一人一人に寄り添い、豊かに生きる力をはぐくもう」をテーマに開催されました。県下各地での関係各位におかれましては、ますますの実践の充実と発展をお願い申し上げます。特別支援教育は教育の基底であると、今正に再認識しています。

### 平成二十一年度

### 主な行事予定

- 五月 第一回理事・評議員会
- 六月 各研究部研修予定集約
- 七月 会報101号発行
- 八月 関プロ山梨大会（6日）  
上越地区特別支援教育研究大会  
柏崎・刈羽大会（19日）
- 十月 中越地区特別支援教育研究大会  
魚沼大会（5日）  
全特連全国大会鳥取大会（28、29日）
- 十一月 下越地区特別支援教育研究大会  
新潟市大会（26日）
- 二月 第二回理事会  
会報102号発行  
各研究部の研修は、それぞれの研修計画に沿って実施します。

## 上越地区大会 妙高大会

平成二十一年度上越地区特別支援教育研究大会妙高大会は、上越特別支援教育研究会及び新潟県特別支援教育研究会、妙高市教育委員会が主催者となり、国立妙高青少年自然の家、妙高市校長会、妙高市教育研究会と共催で行いました。新潟県教育委員会及び妙高市手をつなぐ育成会からはご後援をいただきました。

前回の上越市南部大会と同様に夏季休業中の八月二十日(木)の午後、妙高市文化ホール、新井ふれあい会館等において行いました。大会主題を「一人一人の教育的ニーズを共有する支援を求めて」とし、分科会や講演会で協議したり、研修を深めたりました。夏季休業中ということもあり、上越地区の幼・保・小・中・高・特別支援学校の職員、関連施設職員、保護者など四百五十六人も多くの参加者がありました。改めて特別支援教育への関心の高さがうかがわれました。

分科会では六部会ごとに発表者の提案に基づいて活発な話し合いがなされました。また、全体会では県教育庁義務教育課特別支援教育係指導主事根津博人様から今後の特別支援教育の在り方について県の現状と課題についてご指導をいただきました。講演会では、国立特別支援教育総合研究所発達障害教育情報センター総括研究員笹森洋樹様から、発達障害の子どもの一貫した支援と学校間連携の在り方について具体例をもとにご講演をいただきました。



## 中越地区大会 見附大会

平成二十一年十一月十八日(水)、見附市中央公民館を会場として「平成二十一年度中越地区特別支援教育研究大会見附大会」を開催しました。大会主題「一人一人に寄り添い、豊かに生きる力をはぐくもう」のもと、昨年度に引き続き、分科会と講演会を行いました。

分科会は、「知的・情緒障害(小・中学校別)」「言語障害・難聴」「病弱、肢体不自由、重複障害」「発達障害」「育成会、保護者の会」の六つに分れて行いました。県立教育センター・長岡市教育委員会・魚沼市教育委員会指導主事様、特別支援学校の校長先生方、三条市手をつなぐ育成会理事長様をコーディネーターとし、中越管内の話題提供者の提案をもとに、各分科会ごとに、熱心な協議が展開され、子どもたち一人一人への支援の在り方について有意義な話し合いがなされました。

また、講演会では上越教育大学教授、加藤哲文様から「支

えられ上手」と「自立」とは?」という演題で講演をいただきました。多様な発達障害を抱えている子どもたちの個別の支援計画の構造、自立を促す支援の在り方、援助の方法について、大きな示唆を与えていただきました。

研究大会当日は、雨模様が悪天候でしたが、中越各地から二百名を超える方々のご参加をいただきました。実行委員一同、心から感謝申し上げます。

児童生徒の教育的ニーズに応じて適切な支援策を講じ配慮することは、すべての児童生徒にとって心地よい教育環境を具現することになります。その意味でも今後、特別支援教育の充実がますます大切になり、本研究大会が重要な使命をもつと実感します。





## 下越地区大会 村上・岩船大会

大会主題に「一人一人が豊かに生き、共に成長するための支援の在り方を求めて」を掲げ、十一月十八日(水)村上市民ふれあいセンターを会場として、「平成二十一年度下越地区特別支援教育研究大会村上・岩船大会」を開催しました。

当日は、下越全域から教職員、保護者など、当初の予想を上回る約百七十名の参加を得ることができました。

全体会では、新潟県教育庁義務教育課副参事・特別支援教育係長佐藤昇誠様から「新潟県の特別支援教育について」というテーマでご指導をいただきました。新潟県では、特別支援教育が完全実施されて三年、支援体制の整備・充実を進めてきことを具体的にお話いただきました。さらに今後は、特別支援教育に携わる教職員が、積極的な研修・研鑽によって、資質向上を図ることが大切であるとして指摘いただきました。

分科会は、学校・学級経営部

会、知的障害部会、自閉症・情緒障害部会、発達障害部会、言語・難聴部会、親の会部会の六分科会構成で行いました。

各分科会の発表者からは、校内の支援体制の在り方や保護者・専門機関との連携の在り方、学校・保護者への啓発活動等について具体的に発表していただきました。教職員や保護者の方々からは、自分の体験を基にした意見をいろいろいただきました。各分科会の指導者の方々には、話題に沿った適切なご指導をいただき、大きな成果を得ることができました。

参加者のアンケートから、「保護者として参加したが大変勉強になった。次回は、親の会に参加したい。」「他校の特別支援学級の運営が分かり、自校の見直しの視点をいくつももらえた。」といった意見をいただきました。この大会で得たものが、今後の実践に大きくつながっていくもの、確信することができました。



## 佐渡地区大会

「一人一人が豊かに生きるための支援の充実を求めて」を大会主題に掲げ、佐渡地区特別支援教育研究大会を開催しました。

離島という交通事情から海上穏やかな八月三日(月)に講演会を先行実施しました。金井コミュニティセンターを会場として、県立吉田病院小児科部長の新田初美先生から「ADHDのペアレントトレーニングに学ぶ」という演題で、発達障害を抱える子への接し方等について具体的にご指導いただきました。特別支援教育担当者、通常学級担任、保護者等、予想を超える約二百二十名の参加者を得ました。特別支援教育への関心の高さを改めて感じました。

研究大会は、十一月十一日(水)に金井コミュニティセンター及び佐渡市役所を会場として開催しました。教職員百五名の参加を得て盛大な大会となりました。

全体会では、新潟県教育庁義務教育課副参事外山武夫様から、

「新潟県における特別支援教育の現状と課題」についてご指導いただきました。また、事前にお伝えした質問にも、特別支援学級入級に対する保護者への対応の仕方等、具体的に答えていただきました。

分科会では、知的障害部会小学校、知的障害部会中学校、自閉症・情緒障害部会、発達障害部会に分かれてねらいに沿った着実な実践発表を基に、活発な意見交換が行われました。視聴覚機器の利用や実物での教材の紹介、各校の情報交換も行われ、有意義な研修の機会となりました。



### 全特連全国大会山形大会

#### 【大会主題】

「自立と社会参加をめざし、いのち輝く子どもたち」

#### 【期日】

平成二十一年十月二十九日～三十日

#### 【会場】

山形テルサ等

#### 【本県からの司会・発表等役員】

○第十一分科会「生活単元学習」  
提案発表者 中川麻子教諭  
新潟市立養護学校

### 全特連関ブ口大会群馬大会

#### 【大会主題】

「二人一人が豊かに生きる特別支援教育のよりよい充実をめざして」

#### 【期日】

平成二十一年八月六日

#### 【会場】

市民会館おみや等

#### 【本県からの司会・発表等役員】

○第七分科会  
「難聴・言語障害児への支援」  
提案発表者 白井美智教諭  
阿賀野市立保田小学校

計良由香教諭  
阿賀野市立水原小学校

司会者 八幡寿美子教諭  
阿賀野市立安野小学校

○第十一分科会  
「特別支援教育コーディネーター・校内支援体制」  
提案発表者 荻野禎子教諭  
新潟市立松浜小学校

司会者 高岡恵美教諭  
新潟市立豊栄南小学校

### 知的障害部

#### ○研究主題

「障がい児者のよりよい生活をめざして」地域住民としてどう生活するか、とぎれない支援を求めて」

#### ○知的障害部全体研修会

・期日 平成二十一年八月十日

・会場 新潟県民会館

・参加人数 百六十八名

・講演者 新潟市障がい児者相談支援センター

相談支援専門員 本田ゆり子様

#### ○会の概略と成果

#### 【講演内容】

①新潟市障がい児者地域療育等支援事業の概要

②自立支援法下の福祉サービス

③地域で暮らすための支援の実際

④ふれジョブの概要

⑤ライフステージに応じた支援とネットワーク

#### 【成果】

障がい児者が地域でよりよい生活を送れるよう支援するため、ご自身の豊富な事例をもとに、いろいろな角度から講演をいただいた。地域生活において様々な困難に直面しながらも、周りのサポートを受けて自立する大切さを実感した。また、学校生活で身に付けるべき力を育てるヒントをいただいた。たいへん有意義な研修会であった。

#### ○幹事会

### 自閉症・情緒障害部

#### ○研修テーマ

「発達障害のある児童・生徒の理解と支援のあり方」

#### ○自閉症・情緒障害部研修会

・期日 平成二十一年八月三日

・会場 新潟市万代市民会館

・参加人数 多目的ホール

・講師・演題 目白大学人間学部子ども学科

・学科長 松矢勝宏様

「発達障害のある児童生徒の進路支援と社会参加」国の施策や課題をめぐって」

○会の成果

社会参加を促進するための国の施策や法制度・法改正について、詳しく教えていただいた。また、キャリア教育の重要性を、地域の実践例から再認識した。「発達障害の重さは就業生活の実現に関係しない」というお言葉に勇気づけられた。どの子も生き生きと働く姿を願い、地域や学校、家庭、職場の連携が求められていることを痛感した。

#### ○総会及び研修会

### 言語難聴部

#### ○期日

平成二十一年七月二十八日

・会場 新潟県健康づくりセンター

・参加人数 七十二名

・総会議事

①平成二十年度事業・会計報告

②平成二十一年度事業・予算審議

③役員選出及び承認

④幹事会報告

・講演会 (講師) 新潟医療福祉大学

准教授 吉岡豊様 (演題) 「言語聴覚士の考え方―ケースを通して―」

#### ○幹事会

・期日 平成二十二年二月二十四日

・会場 新潟市立鏡淵小学校

・参加人数 十人

・議事

①平成二十一年度事業・会計報告

②平成二十二年事業・予算審議

○今年度は、研修冊子『えがお』の発行

○発行日 三月中旬予定

○内容 日頃の実践紹介

・自立活動における教材教具の工夫

・個別指導計画の目標と指導の実際

・交流活動の実践

・生活単元学習の実践

・肢体不自由児に対する介助の在り方

・医療機関と連携した支援の実際

・院内学級での実践 など

### 病弱肢体不自由部



県特支研 二十一年の歩み

平成二十二年 会長 大滝雅浩

【地区大会等】

上越大会 頸城・頸北・東頸大会

中越大会 長岡大会

下越大会 三市中東

○全国大会 高知大会

○関プロ大会 山梨大会

【主な歩み】

団体名 新潟県障害児教育研究会と名称変更

平成二十三年 会長 大滝雅浩

【地区大会等】

上越大会 上越・中頸中部大会

中越大会 南魚沼大会

下越大会 新潟市大会

○佐渡大会 (金井町)

○全国大会 札幌大会

報告者

十三分科会「訪問教育」

大谷 寛教諭(県立小出養護学校)

○関プロ大会 神奈川大会

報告者

八分科会「生活単元学習」

岡村博浩之教諭(長岡市立養護学校)

十分科会「作業学習」

西澤一男教諭(県立高田養護学校)

平成二十四年度 会長 大滝雅浩

【地区大会等】

上越大会 糸魚川・西頸城大会

中越大会 三島大会

下越大会 二市・北蒲大会

○全国大会 京都大会

○関プロ大会 長野大会

報告者

七分科会「特殊教育の経営」

永野綾子教諭(上越市立国府小学校)

十五分科会

「LD・ADHD児の理解と支援」

熊倉寿子教諭(三条一ノ木戸小学校)

【主な歩み】

就学基準の弾力化が法的に実施される。

特殊教育の手引き廃刊

平成二十五年 会長 大滝雅浩

【地区大会等】

上越大会 新井・頸南大会

中越大会 南蒲大会

下越大会 西蒲・燕大会

○全国大会 岩手大会

報告者

七分科会「遊びの指導」

藤井 智子教諭(県立月ヶ岡養護学校)

○関プロ大会 栃木大会

報告者

六分科会

「教科・領域を合わせた指導」

浅井順子教諭(新潟市立上所小学校)

十四分科会

「こは・きこえの指導」

荒井晶子教諭(中条町立中条小学校)

【主な歩み】

会報が冊子の形式から現在の形になる。

平成二十六年 会長 大滝雅浩

【地区大会等】

上越大会 柏崎大会

地震のため中止

中越大会 十日町大会

地震のため中止

下越大会 村上大会

○全国大会 広島大会

○関プロ大会 千葉大会

報告者

二分科会

「豊かに生きる基礎を育てる」

阿部直子教諭(新潟市立青山小学校)

十五分科会

「特別支援教育インーシャルスキル」

西村圭子教諭(新潟市立太夫浜小学校)

【主な歩み】

中越大会 震災のため、被災した学校に義援金を送った。

平成二十七年 会長 松原誠

【地区大会等】

上越大会 柏崎・刈羽大会

中越大会 小千谷大会

下越大会 三市・中東大会

佐渡大会 (金井町)

○全国大会 愛知大会

○関プロ大会 茨城大会

【主な歩み】

新潟県特別支援教育研究会に改称

平成二十八年 会長 松原誠

【地区大会等】

全国大会のため各地区大会なし

○全国大会 兼関プロ大会 新潟大会 開催

平成二十九年 会長 吉田俊雄

【地区大会等】

上越大会 糸魚川大会

中越大会・下越大会は市町村合併による地区割りを変更

○全国大会 佐賀大会

○関プロ大会 東京大会

報告者

三分科会

「軽度発達障害児の指導

通常の学級(中学校)」

横田 幸一教諭(上越市立城東中学校)

【主な歩み】

市町村合併により新たな地区割りでの活動。

平成三十年 会長 吉田俊雄

【地区大会等】

上越大会 上越市南部大会

中越大会 長岡大会

下越大会 新発田・北蒲・胎内大会

○全国大会 京都大会

○関プロ大会 群馬大会

報告者

四分科会

「国語、算数等の教科学習」

武田守宏教諭(月ヶ岡養護学校)

十二分科会「高等部教育」

石畑健一教諭

(高等養護学校てまりの里分校)

### 第45回全国特別支援教育研究連盟全国大会新潟大会

期日 平成十八年度十月十七日

二十一日

会場 新潟県民会館 朱鷺メッセ

新潟市内各小中特別支援学校  
テーマ「一人一人が豊かに生きる  
新しい時代を指向して」

一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育充実と発展

この大会は、障害のある児童生徒の学校生活の充実や、発達障害や困難性について理解、一人一人のニーズへの適切な対応などについて、全国各地の実践を持ち寄り、活発な協議が展開された。

#### ●記念講演

演題 「音楽と共に」  
講師 ヴァイオリニスト 川島成道様

幼少期に視力を失いながらも、家族の支えと自らの努力で音楽家として大成するまでの経緯、心の葛藤などをご講話いただいた。

#### ●開催地発表

新潟大学教育人間科学部  
附属特別支援学校

岡田義則教諭  
山田澄人教諭

#### ●研究奨励賞

千葉県船橋市立芝山東小学校  
向野紀子教諭

アトラクション  
ほがらか福祉園サンバチーム  
「La Gattai」(ラ・ガッタ)によるダンス  
障害の有無を感じさせない。躍動感あふれる発表であった。



#### ●シンポジウム

テーマ 「特別支援教育の創造的展開」  
実践に向けた確かな取組を、文部科学省からの特別支援教育における方向性を受けて、教育委員会、学校、大学それぞれの立場から、これまでの成果や今後の課題などがあげられた。また、会場からも、熱心な意見も多数あげられた。



100号によせて

新潟県特別支援教育研究会 会長 吉田俊雄

新潟県特別支援教育研究会会報100号の発行となりました。これを記念してこれまでの当会の歩みを振り返ってみます。

新潟県障害児教育研究会(設立当初の名称)の設立は、昭和28年に遡ります。全日本特別支援教育研究連盟の結成60周年を今年度迎えたことを考え合わせますと、新潟県はその4年後に障害児教育研究会の設立をみています。設立当時の事務局は舟栄中学校でした。また、会報第1号は同年、ガリ版

刷りで誕生と記録してあります。事務局(現在鏡淵小)には、会報第15号(昭和41年)以降のものしか残っていません。その当時の会報の内容は、上・中・下越研究大会(昭和34年に定例化)、佐渡大会(昭和56年から4年に一度)及び各研究部の事業報告、全国大会・関プロ大会報告、会員の声、表彰等で編集されています。現在の会報(平成16年度から)と異なりB5判30頁余りの冊子でした。

また、当会は会報とは別に「特殊教育の手引き」「障害児教育の手引き(後に改称)」を昭和32年から発行しています。事務局に残っている最終号は平成13年度版(以後廃刊)です。その手引きの特色は、当時の課題について特集を組んでいることです。例えば「教

育現場の抱える諸問題」「子どもを見つめ授業をつくる」「教育内容と方法の改善」等々です。さらに実践研究数例が掲載されています。この手引きは、特別支援教育担当者には有効な研修資料となりました。さらには特別支援教育の理解・啓発に果たした役割は大きなものであったと言えます。

新潟県障害児教育研究会設立から新潟県特別支援教育研究会(改称平成17年)の歴史は56年にも及びます。この間にあって、大きな変革は昭和54年の「養護学校義務制完全実施」であり、平成5年の「通級による指導」が法制化されたことです。さらに平成19年の特殊教育から特別支援教育が本格実施となったこと、などが挙げられます。また、新潟県においては、全特連全国大会新潟大会2回・関東甲信越大会新潟大会を4回開催されています。さらに、全特連発達障害セミナー新潟大会が平成2年・3年と連続して開催されたことは誠に意義深いことです。

このように新潟県の特別支援教育の歴史を顧みるとき、先人の特別支援教育への熱い思いが伝わってきます。100号の発行を節目に特別支援教育の未来を拓く中味の濃い会報となるよう努力したいと思えます。